

The Identity of overseas Chinese through The reconstruction of the elderly of overseas Chinese in Korea.

○三育大学校 Kim Young Sook
ユン・ジェヨン (三育大学校)

1. 研究目的

本研究は韓国華僑高齢者に対するライフヒストリ研究で、研究主体のライフヒストリの再構成作業を通して韓国社会との相互作用から形成された華僑高齢者のアイデンティティの変化と韓国人に対する態度、差別経験等を調べた。

2. 研究方法

本研究は Rosenthal(2008)による Narrative-Life history 分析方法を用いた。ライフヒストリの資料は深層面談を通して集めた。資料は、Rosenthal(2008)の分析方法に基づいて次のような3段階を通っている。第1段階では、年代順にライフヒストリを構成した。第2段階では、叙事的ライフヒストリを再構成し、第3段階では体験されたライフヒストリを構成した。

本研究のため、総8名の華僑高齢者と面談した。研究参加者たちは、ネットワークサンプリング方法で構成した。研究者の1人は普段から係り付け店にしている中華料理屋の経営者に研究の目的と趣旨を説明し、紹介をもらいまたその人から紹介をもらう方法で8名の華僑高齢者からライフヒストリの口述を聴取した。8名の華僑高齢者の中から叙事的ライフヒストリと体験されたライフヒストリの内容が明確に現れる1名を選定し、収集敵なインタビューを遂行した。7名の華僑高齢者からは彼らの概略的生涯経験を聴取し、本研究主体の経験と体験を分析するときの比較資料として用いた。

3. 結果

ライフヒストリ研究主体の生涯は韓国での生存のために韓国人の仮面をかぶって生きてきたが、一方では錦衣還郷を夢見ながら生きてきた戦いのヒストリとして分析された。しかし、ライフヒストリの研究主体は韓国、台湾、中国どこからも歓迎されなかったアイデンティティ喪失のヒストリであった。

4. 結論

多文化社会で統合は移住民のアイデンティティを抹殺したり、または彼等の孤立性を認めることではなく、原住民と移住民の文化とアイデンティティの新たな次元に発展することであるといえる。すなわち、異質的な対立項の統合から生成された新たな社会的構成物ともいえる。これは、文化の豊かさはもちろん国と社会の競争力になりうる。このための具体的提言は次のようである。まず、学校と社会での地球村市民意識の教育である。現在、私たちの多文化教育は移住民の文化を理解するための交差文化教育まで発展した。総合理解はもうひとつの次元での統合が必要である。脱国、地域の文化とアイデンティティは結局地球村市民であるとの大きな規範の枠から統合されることができる。二つ目に、移住民また多文化家族に対するアプローチから世代間差別されたアプローチと視覚の必要性である。研究結果からみたように、移住民の場合、移民1世代や2世代のアイデンティティとニーズが異なる。移民1世代の社会的アゼンダーが経済的、法律的安定であれば、2世代は政治、文化的なことでもあるため、世代間の特性に注目する必要がある。